

オオワシの感電事故

年明け早々の1月10日早朝、6時間にわたってウトロ地区が停電しましたが、その原因はオオワシが送電線に触れて感電死したものであることがわかりました。斜里町では猛禽類の感電死事故が以前にも起きています。1998年1月にはウトロ近くの海岸でシマフクロウが電柱上で感電死する事故が起きました。この時もウトロ市街が停電しています。2001年4月にも高圧送電線の下で死亡したオオワシが発見されました。

オオワシ・シマフクロウともに種の保存法や天然記念物に指定された希少種です。また、冬期の長時間の停電は住民の生活や業務に大きな影響を与えてしまいます。シマフクロウの事故の後に北電では海岸沿いの約15・の間の電柱（300本以上）に感電防止対策を施しました。電柱にシマフクロウやワシが止まれないような器具の設置と、電線に触れずに止まれる止まり木の設置の2タイプ



感電防止対策の止まり木



感電死したオオワシ

があります

。国道沿いやウトロ市街ですので見られた方も多いと思います。対策をした区間ではその後感電事故が起きておらず、止まり木に止まるシマフクロウも観察されていることから効果は上がっていると思われます。知床は野生動物と人との共存が特に重要な地域です。今回事故が起きた高圧の送電線への対策は、また違った工夫や設計が必要となると思いますが、前回同様博物館も一緒に方法を考えていきたいと思っています。

（中川元）

～ もちつき大会の様子から ～

12月28日は天候にも恵まれ、毎年恒例のもちつき大会が行われました。交代でおもちをついたあと出来立てのおもちをいただきましたが、つくたてのおもちの味は美味しくあっという間に食べてしまったようです。

その後は竪穴住居見学ツアーを行い、竪穴住居内で作った魚の燻製を皆さんに試食して頂きました。燻製は大好評で皆さんに喜んでいただくことができました。あっという間に時間が過ぎましたが、子供達の元気な声で賑やかな博物館の一日でした。



新しい一年の始まりです。新年早々、斜里の町中も雪に覆われてしまいました。除雪する回数も段々と増えてきたような感じがします。除雪車の音が聞こえてくるのも冬ならではの光景です。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2003.1.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>